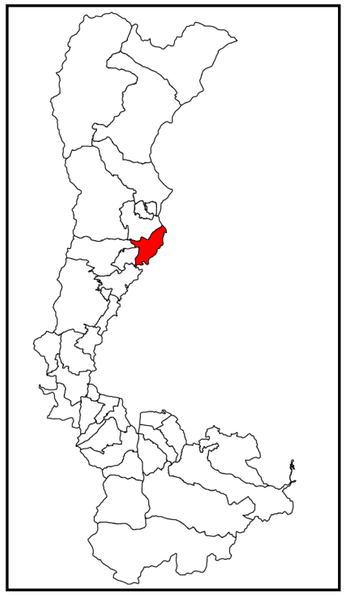
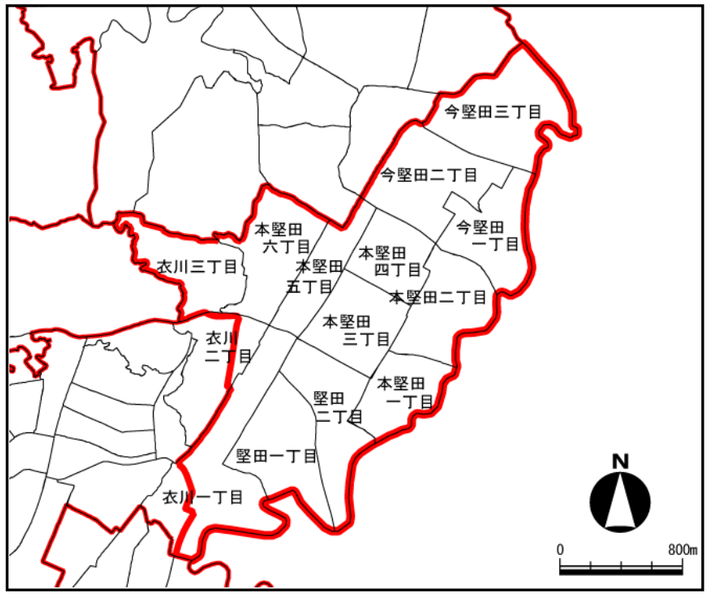
◆ 堅田学区

■ 学区の概況





＜町丁名＞

堅田一丁目、堅田二丁目、本堅田一丁目、本堅田二丁目、本堅田三丁目、本堅田四丁目、本堅田五丁目、本堅田六丁目、衣川一丁目の一部、衣川二丁目の一部、衣川三丁目、今堅田一丁目、今堅田二丁目、今堅田三丁目

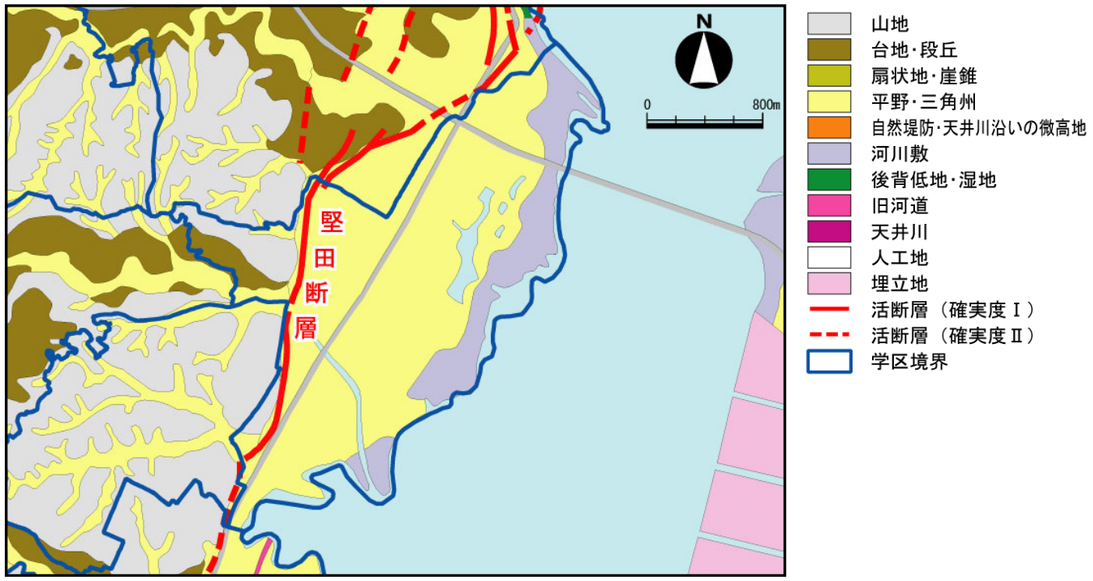
（注）学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

＜学区の特徴＞

堅田学区は琵琶湖の最狭部の西岸に位置する。平安期には延暦寺の荘園（堅田荘）や京都下鴨神社の御厨が設置され、またこのことで堅田浦（湖上関）による湖上特権を有するなど、水運と漁業の拠点として栄えてきた町である。織田信長とのつながりもあり、湖岸には環濠に仕切られた堅田四方と呼ばれる屋敷地が集中し、西方には条里遺構の耕作地が開けている。比良・比叡・三上山が一望できる景勝の地としても価値があり、松尾芭蕉やその門下の文人墨客が多く訪れたといわれている。

国道 477 号が琵琶湖大橋で湖東地域と結ばれており、交通の要衝となっている。

■ 地形・地質の概要



（注）図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜地形の特徴＞

- 堅田学区の大部分は低地にあり、西部に堅田丘陵と台地が分布する。この地域の低地は大津の湖西地方としては比較的幅が広い。
- 低地内には内湖の一つが現存しており、貴重な景観を残している。また天神川は低地部で天井川になっている。

＜地質の特徴＞

- 学区西部に広がる堅田丘陵は古琵琶湖層群堅田累層からなる。これは約 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

＜活断層の特徴＞

- 丘陵と低地の間に堅田断層の北半分が通過している。堅田断層は、木戸学区の南船路から比叡辻までのびる、長さ約 13km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度（戸/ha）(注1)	不燃領域率（%）(注2)	木造率（%）	旧耐震木造建物/木造建物（%）
堅田一丁目	71.3	62.6	88.6	12.6
堅田二丁目	47.3	－	12.4	95.5
本堅田一丁目	78.2	52.9	87.2	66.6
本堅田二丁目	76.4	69.9	79.3	59.7
本堅田三丁目	72.9	69.9	73.4	43.4
本堅田四丁目	47.4	81.0	62.0	12.7
本堅田五丁目	71.7	84.7	60.2	45.8
本堅田六丁目	71.8	82.3	70.5	9.0
衣川一丁目	61.0	78.0	77.5	27.7
衣川二丁目	53.1	91.1	25.7	12.7
衣川三丁目	74.8	90.2	79.4	53.9
今堅田一丁目	55.8	70.3	81.7	59.2
今堅田二丁目	59.1	79.1	67.6	6.6
今堅田三丁目	60.5	91.6	71.2	34.9
学区平均	65.0	79.0	71.0	36.0
出典	1,2	1,2	2	2

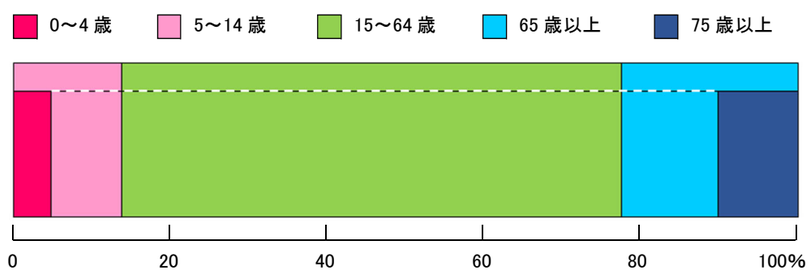
（注）表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
（注1）市街化区域を対象とした。
（注2）算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上，市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。
出典　1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況
　　2：資産税データ（R4.4）

- 住宅密集度の学区平均は 65.0 戸/ha で市平均（全学区の平均）の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 79.0%で市平均の 93.9%より低い。
- 木造率は、堅田一丁目が 88.6%で最も高く、堅田二丁目が 12.4%で最も低い。学区平均は 71.0%で市平均 72.7%より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、堅田二丁目が 95.5%で最も高く、今堅田二丁目が 6.6%で最も低い。学区平均は 36.0%で市平均 40.3%より低い。
- 堅田学区の建物状況は、町丁目ごとの差が大きいという特徴がある。

■ 人口の状況

項　　目	人口等	単位	備　　考	割合（%）	出典
学区人口	17,281	人		－	1
年齢別（0～4 歳）	811	人	学区人口に対する割合	4.7	1
年齢別（5～14 歳）	1,563	人	学区人口に対する割合	9.0	1
年齢別（15～64 歳）	11,019	人	学区人口に対する割合	63.8	1
年齢別（65 歳以上）	3,888	人	学区人口に対する割合	22.5	1
年齢別（75 歳以上）	1,775	人	学区人口に対する割合	10.3	1
世帯数	7,880	世帯		－	2
１世帯当たり人口	2.2	人/世帯		－	2
要介護認定者	744	人	学区人口に対する割合	4.3	3
身体障害者（要配慮者）	193	人	学区人口に対する割合	1.1	4
知的障害者（要配慮者）	45	人	学区人口に対する割合	0.3	4
外国人居住者	227	人	学区人口に対する割合	1.3	5

（注）１世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。
出典　1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31 現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31 現在）
　　3：学区別要介護認定者（R4.4.30 現在）、4：大津市データ（R4.3.31 現在）
　　5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）



＜年齢別人口比率＞

- 主に国道 161 号より東側の地区が人口集中地区（ＤＩＤ地区）である。
- 学区人口は、市内で４番目に多い。
- 高齢者（65 歳以上）は 3888 人、乳幼児（0～4 歳）は 811 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 22.5%、4.7%である。
- 乳幼児の学区人口は、市内で２番目に多い。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より高い。
- 要介護認定者は 744 人（4.3%）、身体障害者（要配慮者）は 193 人（1.1%）、知的障害者（要配慮者）は 45 人（0.3%）である。
- 外国人居住者は 227 人（1.3%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 (注1)	6 箇所	1
土石流危険渓流 (注1)	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 (注1)(注2)	8 箇所	2
土砂災害警戒区域 (注1)(注2)	13 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） (注1)	1 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） (注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 (注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 (注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 (注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 (注3)（0.0m～0.5m）	676,983 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	703,418 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	619,139 ㎡	6
（2.0m～）	77,162 ㎡	6
特に重要な水防区域 (注1)	0 箇所	7
重要水防区域 (注1)	1 箇所	7
防災重点農業用ため池 (注1)	1 箇所	8

（注 1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。
（注 2）複数の区域をまとめて 1 つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。
（注 3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位が B.S.L.＋2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典　1：滋賀県砂防課（R3.7.16）　2：滋賀県砂防課（R3.2）
3：滋賀県森林保全課（R3.11）　4：滋賀県砂防課（H24.12）　5：農林振興課、砂防課（H24.12）
6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
7：琵琶湖河川事務所（R2.6）　8：大津市産業観光部（R3.12）

＜防災上の特性＞

- 大部分が低地であり、防災上注意の必要な危険箇所の指定部は比較的少ない。
- 学区南部を流れる天神川は一部天井川化している。
- 湖岸部や真野川流域、天神川流域は、河川敷に相当する地形区分になっており、豪雨時には河川の氾濫等に注意が必要である。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 琵琶湖岸の低地のほとんどが、琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域となっている。
- 学区内には、堅田断層が通過している。この断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。

■ 防災関連施設情報

＜指定緊急避難場所・指定避難所＞

種　類	名　称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	堅田中学校グラウンド	○		○		本堅田三丁目 22-1
	天神山保育園グラウンド	○	○	○		本堅田六丁目 3-1
	堅田高校・堅田小学校グラウンド一帯	○	○	○	○	本堅田三丁目 9-1 他
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	堅田市民センター	○	○	○		本堅田三丁目 8-1
	堅田小学校体育館	○	○	○		本堅田三丁目 6-1
	堅田中学校体育館	○		○		本堅田三丁目 22-1
	堅田幼稚園	○	○	○		本堅田三丁目 7-17
	北部地域文化センター	○	○	○		堅田二丁目 1-11
	堅田高校体育館	○	○	○		本堅田三丁目 9-1
	堅田かすがやま翔裕館	○	○	○		本堅田六丁目 16-8
	本福寺こども園	○		○		本堅田一丁目 22-30
	第二本福寺こども園	○	○	○		本堅田六丁目 14-11
指定避難所	堅田中学校武道場	—				本堅田三丁目 22-1
	（福）堅田保育園	—				本堅田四丁目 26-1
	（福）天神山保育園	—				本堅田六丁目 3-1

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。
指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。
※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

＜市関連機関＞

名　称	所在地	電話番号
大津市役所	**御陵町 3-1**	**523-1234，528-2616**
堅田市民センター	本堅田三丁目 8-1	573-1211

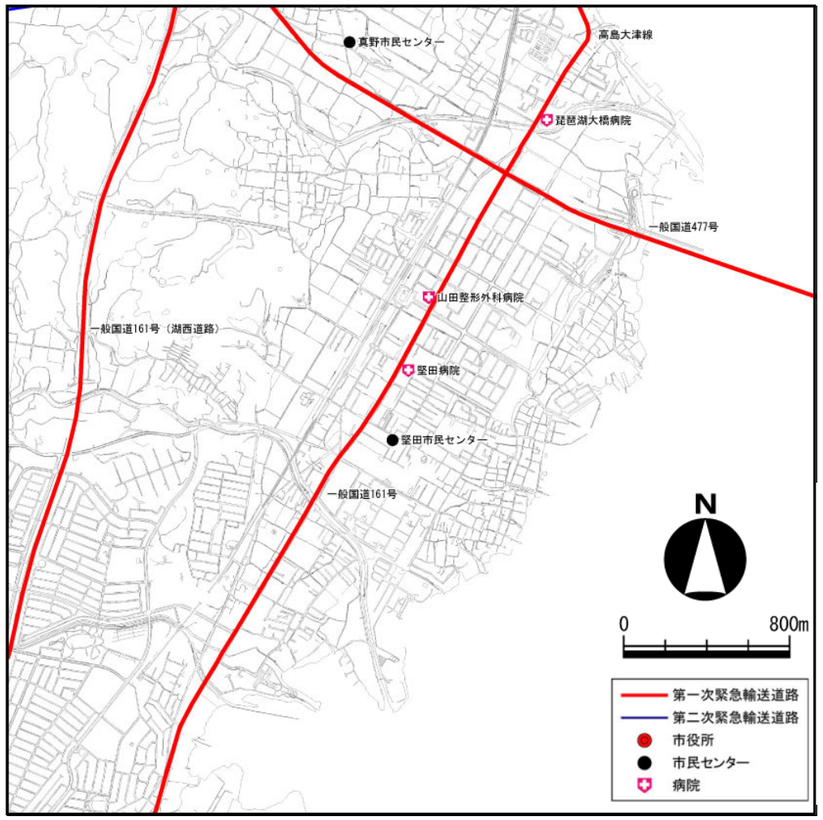
＜警察　110＞

名　称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	**打出浜 1-10**	**522-1231**
大津北警察署	**真野二丁目 20-23**	**573-1234**

＜消防　119＞

名　称	所在地	電話番号
大津市消防局	**御陵町 3-1**	**522-0119**
北消防署	**真野二丁目 23-1**	**572-0119**
堅田分団	本堅田三丁目 8-1	573-5180

＜緊急輸送道路＞



（注）緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

＜医療施設＞

種　別		名　称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35	522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9	522-4607
	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298	594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29	573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1	537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町	548-2111
病院		堅田病院	本堅田三丁目 33-24	572-1281
		山田整形外科病院	本堅田五丁目 22-27	573-0058

■ 地震災害危険度予測

＜地震被害想定結果＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース１	4,726	15,753	1,962	1,048	2,486	65	45	48	180	138	136	9	7	7
ケース２	4,726	15,753	1,883	1,052	2,409	62	43	45	180	138	136	9	7	7
ケース３	4,726	15,753	1,161	1,182	1,752	27	18	20	276	216	211	14	11	11

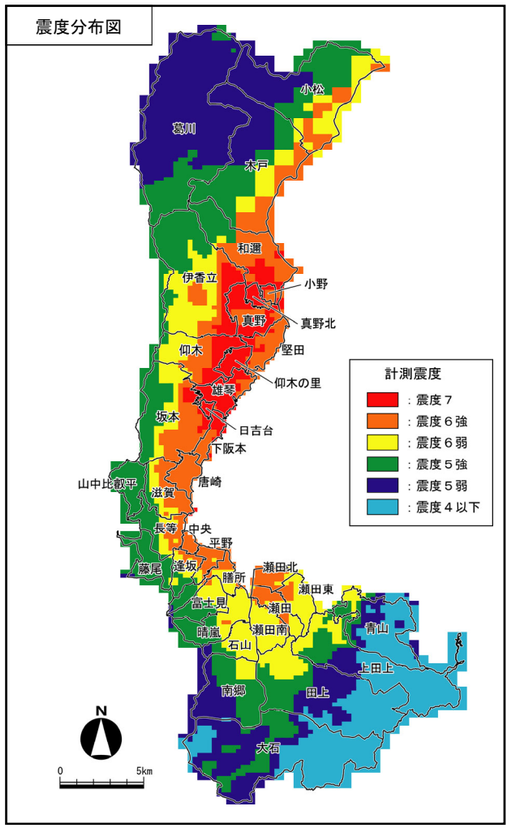
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース１	2	4	5	2,798
ケース２	2	4	5	2,752
ケース３	1	2	3	2,172

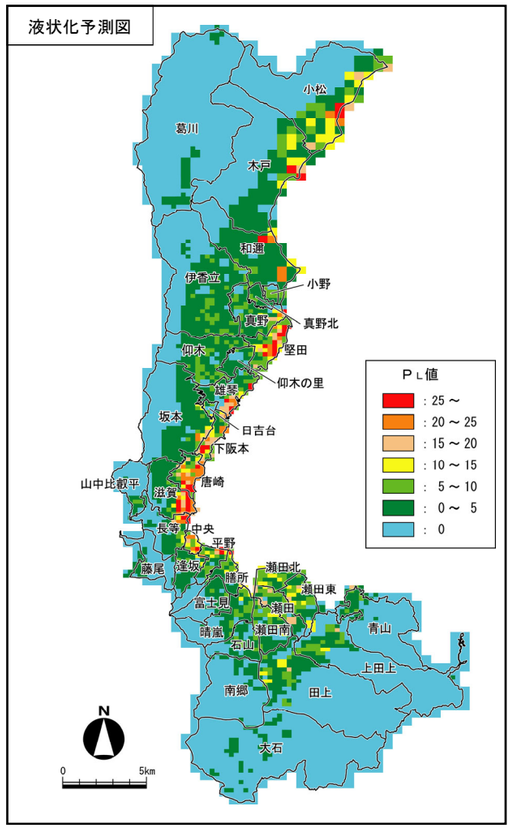
（注）表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

＜震度分布及び液状化予測図＞

● 琵琶湖西岸断層帯地震（ケース２）





出典　大津市防災アセスメント調査業務報告書（H17.3）

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書（H18.1）

（ＰＬ≧10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
ＰＬ≧20 激しい液状化）